

寄稿論文

初心に戻り移動平均線を使った戦略投資法を再考！

株式会社フジトミ
米倉 教公

1. はじめに

みなさんも投資を始めた頃は、ロウソク足の動きや移動平均線とロウソク足との動きを見ながら慎重にトレンドの有無や強さを分析しながら投資していたのではないだろうか。しかし、徐々にモメンタム系のオシレータの便利さや簡単さを知ってくると、ロウソク足や移動平均線の分析は二の次になり、オシレータの買われ過ぎ・売られ過ぎだけでトレードするようになった投資家は多いと思う。しかし、明確なトレンドが発生している時は、モメンタム系のオシレータは買われ過ぎ・売られ過ぎのシグナルを出しながら高水準・低水準に張り付き過熱感を出しながらもトレンドが継続するため、大きな損失につながりやすい。厄介なのは、色々とパラメータを変えて最後までオシレータに頼る投資家である。明確なトレンドが発生している場合は、ある程度パラメータを変えても結果は同じで、過熱感を出ているものの一向に反転の兆しが出ない。また、ストップロスのタイミングも外しやすく、大きな損失につながりやすい。今回は初心に戻り、移動平均線の基本的な見方から、移動平均線の応用版を使った実践的な移動平均線を紹介したいと思う。移動平均線も使い方の工夫で色々な投資戦略があることが分かる。ちなみに商品市場では、一度トレンドが発生すると継続する傾向があり、オシレータに頼るトレードをしていると、大きな損失を被りやすい。一方で、上手くトレンドに乗れば『億り人』の仲間入りも夢ではない。

2. 基本的な移動平均線を使った日足チャート分析

一般的に使用されている日足の移動平均線では、5日単純移動平均線(SMA)、25日 SMA、75日 SMA、200日 SMA の組み合わせである(図1)。分析ポイントは、①短期 SMA から中長期 SMA の順番である。上から 5日 SMA ⇒ 25日 SMA ⇒ 75日 SMA ⇒ 200日 SMA ならば典型的な上昇トレンドとなる。一方で、上から 200日となり一番下に 5日 SMA となると典型的な下落トレンドとなる。ただ、上記のような並びに整列する方が珍しい。そのため、②各 SMA の方向性が重要となる。短期線が上向きでも中長期線が下向きなら、戻り売り目線となる。一方で、短期線が下向きでも中長期線が上向きなら押し目買い目線となる。③過去において何日線がサポートラインまたはレジスタンスラインになっていたかをチェックすることで、再び抵抗ラインとなりやすい。④短期売買では、5日 SMA をロウソク足が上抜けたら買い、下抜けたら売りという売買方法がある。⑤ 5日 SMA と 25日 SMA のデッドクロスとゴールデンクロスを売買タイミングとする方法がある。一般的な週足では 13 週 SMA、26 週 SMA、52 週 SMA を使用する。月足では 12 ヶ月 SAM、24 ヶ月 SMA、60 ヶ月 SMA がよく使われる。

3. 基本移動平均線に追加することで分析カアップ

基本移動平均線の日足に 10日 SMA、100日 SMA、260日 SMA を追加する(図2)。これで 5日

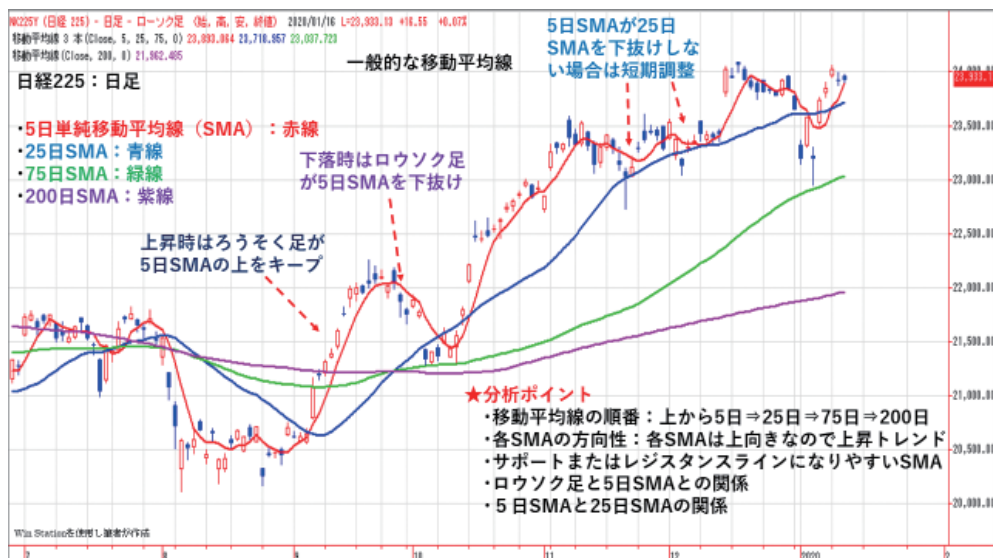


図 1. 一般的な移動平均線



図 2. 移動平均線の追加チャート

SMA、10 日 SMA、25 日 SMA を組み合わせた短期的な動きが分析できる。①短中期線 3 本の方向性が揃って同方向を向いていれば短期的なトレンドが発生していることになる。トレンドに乗るのであれば、ロウソク足が 5 日 SMA の上にあり、上から 5 日 SMA ⇒ 10 日 SMA ⇒ 25 日 SMA の順になっている時に買う。逆にロウソク足が 5 日 SMA の下にあり、上から 25 日 SMA ⇒ 10 日 SMA ⇒ 5 日 SMA になっていれば売る。②短中期 SMA の方向がともに上向きなのか、それとも下向きなのかを見極める。3 本とも上向き・下向きならばトレンドが発生

していることになる。しかし、5 日 SMA の動きが他の SMA と方向性が変化した場合、トレンドの反転の兆しとなりやすいので、売買はより慎重になる。25 日 SMA と 75 日 SMA と 100 日 SMA で中期的なトレンドを分析する。①短中期分析と同様に各 SMA の順番と方向性がポイントとなる。②中期トレンドになると過去に抵抗体となってトレンドが反転するなど、相場の節目になることが多いことから、過去の動向をチェックする必要がある。抵抗体にならず、上抜け・下抜けした場合は、買い乗せ・売り乗せの場面となる。100 日 SMA と 200 日



図 3. 22 日 SMA22、78 日 SMA 追加

SMA と 260 日 SMA で中長期のトレンドを分析する。260 日 SMA は、1 年間＝365 日から土曜日 (52 日)＋日曜日 (52 日)＋正月 (1 日) を差し引いた主要市場の営業日数となる。上記同様に各 SMA の順番と方向性、さらに過去の抵抗体をチェックする必要がある。特に 200 日 SMA と 260 日 SMA の上抜け・下抜けは相場の転換を示すことから、相場の方向性を示す重要ポイントとなる。

4. ユダヤの法則【78 対 22 の法則】を使ったチャート

★ユダヤの法則とは

- 人間の体は、水分 78%、その他 22%
- 円に外接する正方形は、正方形の面線を 100 とすると、円の面積は 78、残りは 22 になる
- 空気中の成分は、窒素約 78%、酸素・二酸化炭素等その他の気体が 22%
- コカコーラのビンは、縦と横の比率が 78 対 22
- 腸内の善玉菌が 78% に対して、悪玉菌が 22% が理想的
- 足裏の体重負荷率は 78 対 22 など

我々の体や身の回りには 78 対 22 のユダヤの法則が溢れている。それならば投資分析として、ユ

ダヤの法則である 22 日 SMA・78 日 SMA・100 日 SMA を使ってチャート分析する。ここで気が付くと思うが、投資分析する上で 25 日 SMA と 75 日 SMA が重要なポイントになることが多い。それでは 22 日 SMA と 25 日 SMA および 78 日 SMA と 75 日 SMA を重ねてみると、若干のブレはあるものの大差のない動きとなっている (図 3)。

重要ポイントとなりやすいのは、まったく根拠はないがユダヤの法則の中にあるのではないかと考えている。要するに現在使われている 25 や 75 は切りの良い数字であることからではないかと考えている。

22 日 SMA と 78 日 SMA と 100 日 SMA のチャートを見てみる。

基本的には中期トレンドを分析する時の使用となる。分析方法としては、①ロウソク足が 22 日 SMA を上抜け又は下抜けしたタイミングで売買、②各 SMA の順番で上から 22 日 SMA ⇒ 78 日 SMA ⇒ 100 日 SMA の順番なら上昇基調、その逆なら下落基調、③各 SMA の方向性で全て上向きなら上昇トレンド継続、全て下向きなら下落トレンド継続、④上昇基調から 22 日 SAM が下向きとなれば反落の兆しとなり、下落基調から 22 日 SMA が上向きとなれば反騰の兆しとなる。⑤各 SMA がサポートから反転すれば買い、レジスタンスとなり反落すれば売りとなる。

5. T レート (8 日 EMA) トレード戦略

8 日指数平滑線 (EMA) を T レートとして、①ロウソク足が T レートを上抜けすれば買い、下抜けすれば売りという単純な分析方法であるが、それではダマシが頻発してしまう。そのために、20 日単純移動平均線 (SMA) を追加する (図 4)。分析方法としては、② T レートが 20 日 SMA の上に位置している場合は買い目線となる。一方、T レートが 20 日 SMA の下に位置している場合は売り目線となる。③ T レートと 20 日 SMA の方向性で両線が上向き

なら上昇基調継続、両線が下向きなら下落基調継続となる。上昇基調からロウソク足が T レートを下抜け T レートも下向きとなると、反転の前兆となる。また、下落基調から T レートが上向きとなると同様に反転の前兆となる。④重要なのはストップロスであるが、非常に分かりやすく買いポジションなら T レートが 20 日 SMA とデッドクロスしたら手仕舞い売りとなる。また、売りポジションなら T レートが 20 日 SMA とゴールデンクロスしたら手仕舞いの買戻しとなる。非常に単純なトレード方法であるが、分足から月足まで幅広く使える。

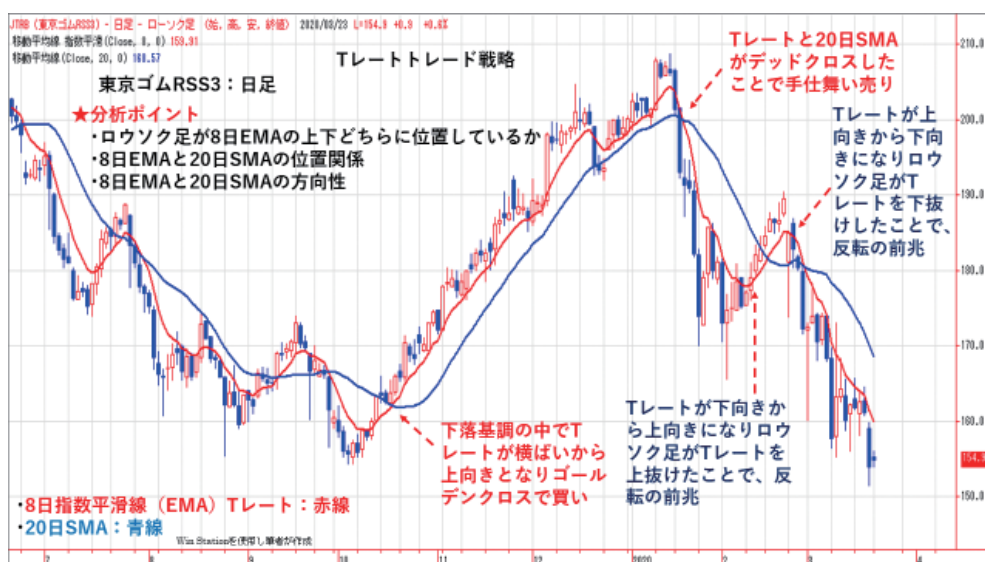


図 4. 東京ゴム RSS3 日足 T レートトレード戦略



図 5. ドル / 円 60 分足 T レートトレード戦略

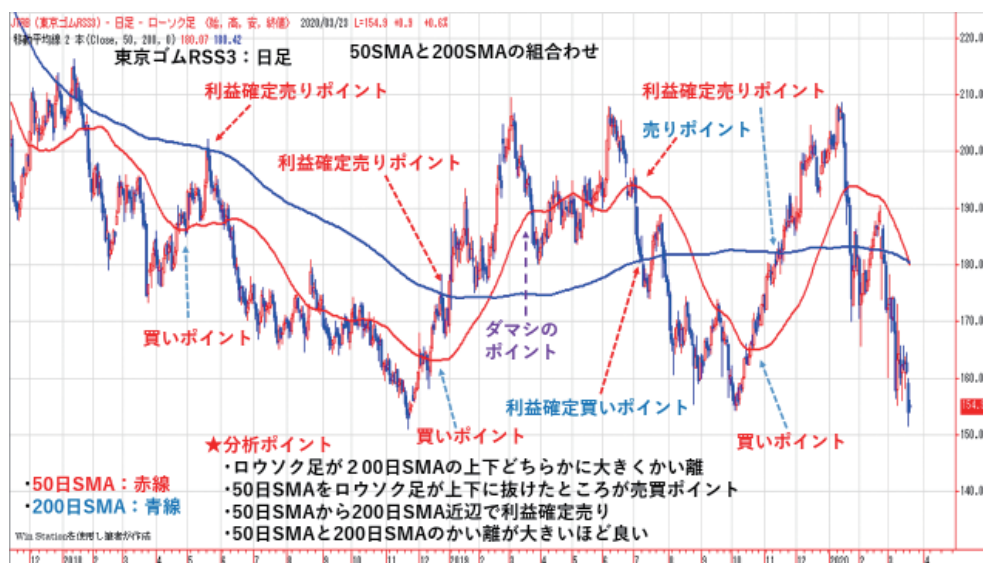


図 6. 50SMA と 200SMA の組み合わせ

6. 50 日 SMA と 200 日 SMA を使ったトレード戦略

中長期トレード戦略となるが、中期線の 50 日 SMA と長期線の 200 日 SMA を使ったトレード手法となる（図 6）。大きく下落して 50 日 SMA を下抜けるような下落となった。しかし、底値から戻り基調となり 50 日 SMA を上抜けしたら買いシグナルとなる。そして、200 日 SMA で手仕舞い利食いとする。また、大きく上昇して 50 日 SMA を上抜けするような上昇となった。しかし、天井から反落基調となり 50 日 SMA を下抜けしたら売りシグナルとなる。そして、戻り基調と同じように 200 日 SMA で手仕舞い利食いとする。このトレード戦略には幾つかの注意点がある。①まずは 50 日 SMA と 200 日 SMA のかい離が大きい時に有効となる。200 日 SMA で利食いすることからかい離幅がないと利益も小さくなる。②一応 200 日 SMA で利食いとしているが、勢いよく 200 日 SMA を上下に抜けた場合は半分利食って、残り半分は保有するように臨機応変に対応する必要がある。何故 200 日 SMA で利食いするのかであるが、多くの投資家が 200 日 SMA を上下に抜けるが注目している相場の節目となる。そのため、上下に抜けることができないと基のトレンドに戻りやすいからである。50 日 SMA を上下に抜けても再び

トレンドが戻り 50 日 SMA を抜けた場合はダマシと判断してストップロスする必要がある。

7. MACD のダマシを克服する戦略

モメンタム系オシレーターの中でも MACD（移動平均収束発散法）を使用している投資家が多い。MACD は、『短期移動平均線・長期移動平均線』で計算され、2 本線間のかい離の収束と発散からトレンドを分析する手法である。MACD を使う場合には、使用する短期指数平滑線（EMA）と長期 EMA をチャート上に表示するとダマシが減少する。考案者のジェラルド・アペルが推奨している 12 日と 26 日を使ったチャートを使用する（図 7）。

日経 225 のチャートでは、価格は上昇基調の中 MACD は上値を切り下げる展開となっており、MACD に従うならば売りポジションとなる。しかし、価格が上昇していることから、損失が膨らむ展開となった。ただ、この期間 12 日 EMA は 26 日 EMA の上にあり、ロウソク足は 12 日 EMA と 26 日 EMA がサポートラインとなり上昇している。この 2 本の EMA を見て売りと判断しないだろう。12 日 EMA が 26 日 EMA を下抜けしてから相場の様子が変わった。もし、12EMA と 26EMA を使用していたら、売りではなく買いとなった。また、その後デッドクロスしてからは買いではなく、売



図 7. 12 日 RMA と 26 日 EMA の組み合わせ

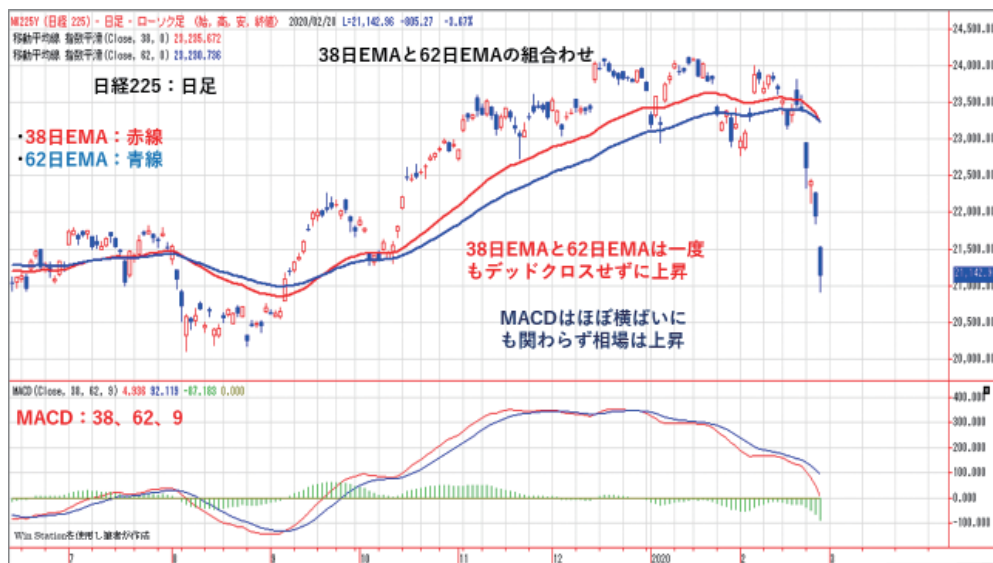


図 8. 38 日 EMA と 62 日 EMA の組み合わせ

りで大きく利益が出せたことになる。

もう一つ MACD のパラメータを 38、62、9 と 38 日 EMA と 62 日 EMA を使ったチャートを見してみる (図 8)。38 と 62 はフィボナッチ数列を使ったパラメータである。

期間を長くしたことで、EMA と MACD は緩やかな動きとなっている。小さな動きは無視して大きな流れを掴みやすくなる。

8. 長期トレンド分析には 200 週 SMA

200 週 SMA 分析では銘柄によって相性があるようで、合うものとそうでないものがある。相性が良いのは NY ダウと日経 225 が上げられる。特徴は上昇基調では 200 週 SMA がサポートラインとなり反転ポイントとなる (図 9)。しかし、200 週 SMA を下抜けると大きな下落調整となる (図 10)。



図 9. NY ダウ 200 週 SMA



図 10. 日経 225 200 週 SMA

9. ドル/円の長期トレンドを見極める戦略

ドル/円の長期トレンドを分析する上で役立つのが 17 カ月 SMA と 34 カ月 SMA の組み合わせである (図 11)。17 カ月 SMA が 34 カ月 SMA を下抜けると 17 カ月 SMA がレジスタンスとなり円高基調が強まる。一方で、17 カ月 SMA が 34 カ月 SMA を上抜けると 17 カ月 SMA がサポートラインとなり円安基調が強まる。ただ、近年では 17 カ月 SMA と 34 カ月 SMA が横ばいとなり、

2015 年 6 月高値 125.85 円を起点として 2018 年 10 月高値 114.55 円を結んだトレンドラインと 2016 年 6 月安値 98.98 円を起点として 2019 年 1 月 104.70 円を結んだトレンドラインが三角持ち合いとなっている。上下放れでトレンドが発生すると、以前のように分析しやすくなる。

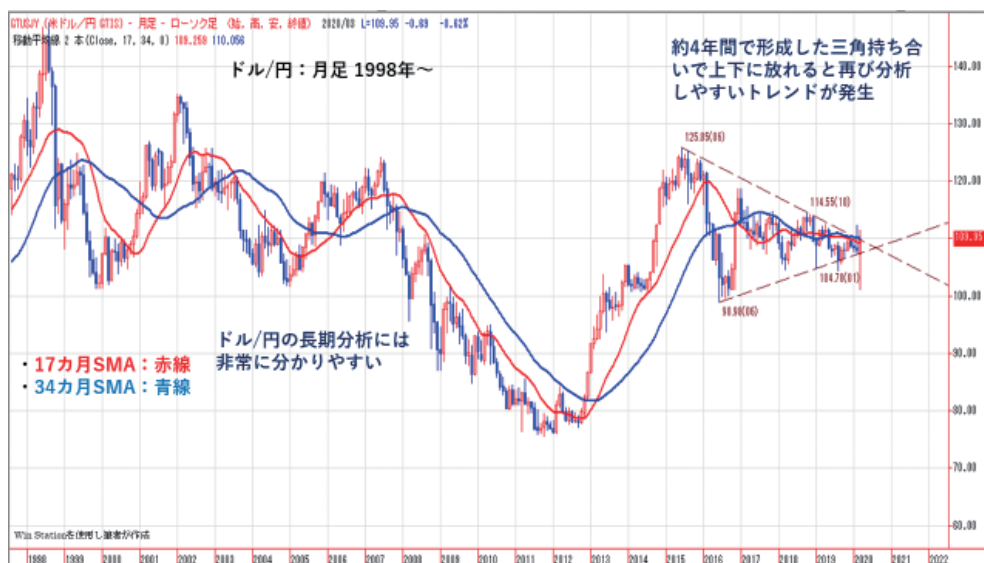


図 11. ドル/円 長期トレンド分析



図 12. 日経 225 長期トレンド分析

10. 60 カ月 SMA を使った長期戦略

60 カ月 SMA は 5 年間の移動平均線となっており、長期的なトレンドを見極める戦略となる。この 60 カ月 SMA も相性が良いものとそうでないものがある。その中で、日経 225 では、60 カ月 SMA を下抜けると長期的な下落調整となりやすい(図 12)。2012 年 12 月に 60 カ月 SMA を上抜けてから 2020 年 2 月までサポートラインとして意識されてきたが、3 月に下抜ける展開となった。

そのため、下値模索の展開が今後続くことが過去の 60 カ月 SMA 割れから予測できる。長期トレンドが分かると、大きく上下に振れた際に押し目買いまたは戻り売り目線で市場を見ることが出来る。60 カ月 SMA を下抜けたことから、押し目買いから戻り売り目線となった。

東京金も 60 カ月 SMA とは相性が良い(図 13)。1990 年から 60 カ月 SMA がレジスタンスとなり上値を抑えていたが、2001 年 12 月に上抜けすると何度かサポートラインとなり上昇トレンドを維



図 13. 東京金 60 カ月 SMA

持してきた。東京金は 60 カ月 SMA の上方に位置していることから、日経 225 とは違って押し目買い目線が継続していることになる。

●プロフィール

米倉 教公

短資会社、外資系銀行、国内銀行、外資系投資運用会社、国内証券会社などで FX・スワップ・国内外債券・株式・商品などディーラー、ファンドマネージャー、法人・個人営業等を経験し、その経験を活かし誰にでも分かりやすい経済・金融の講師となる。ディーラー、ファンドマネージャー時代にはレコードを塗り替える収益パフォーマンスの実績を残す。現在は、(株)フジトミを中心に今までの経験を活かし、FX、株、商品等、あらゆる金融商品に関するテクニカル分析や投資手法に関するセミナー講師や市場コメントの執筆活動をしている。1984 年東海大学政治経済学部卒。



11. まとめ

今回は移動平均線の活用法を幾つか紹介したが、活用法についてはだれかに教えてもらうとか、たまたま見たブログや本などに書いてあるなど、自分で発見するのは容易ではないと思う。そのため、私が知っている幾つかの活用法を紹介した。この寄稿文を読んで移動平均線に興味を持ち、オリジナルの移動平均線投資法を考案する切っ掛けになれば筆者としても嬉しい。個人的には、Tレートトレード戦略が最も実践的で、あらゆる時間軸(分足から月足)で使用可能なので、お薦めの手法である。また、MACD を使用している投資家には、是非とも MACD のパラメータに使った数値の指数平滑線 (EMA) を入れたチャートにすることで、ダマシが減少するのでお薦めである。中長期トレンドについては、投資手法が押し目買い目線なのか、それとも戻り売り目線になるのかの見極めになるので、重要な投資ポイントとなる。